

まちづくりの目標	4. 環境こやさん、自然と都市機能が調和した、住みやすいまち	主担当課	都市計画課
小分野	4 1 2 都市づくり	関係課	学研推進室・事業計画課・みどり公園課・いこまの魅力創造課・教育指導課

1. 第5次総合計画後期基本計画の成果と課題

	小分野	現状と課題	4年後のまち	指標	4年後のまちに向けて 実現できた主な成果	4年後のまちに向けて 残した主な課題												
第5次生駒市総合計画後期基本計画	311 土地利用	<p>本市は、大阪のベッドタウンとして急激な人口増加にあわせた都市基盤の整備や市街地開発が進んできました。人口減少や超高齢化社会の到来により人口増を前提とした都市づくりを進めていくことが困難となってきています。</p> <p>そのため、環境負荷の少ない低炭素社会や都市機能・公共サービスの集約化を図るコンパクトな都市構造の実現に向けた方向転換が必要となってきています。</p> <p>一方で、近鉄けいはんな線が開業するなど、同線周辺地域においては今後の発展の可能性を見受けることができます。</p> <p>また、本市では、平成 23 年に策定した生駒市都市計画マスタープランに基づいた土地利用・まちづくりを進めており、今後とも本市の恵まれた自然を活かしつつ、将来を見据え、まとまりのある都市空間の形成と、地域の特性に応じたまちづくりを行っていく必要があります。</p>	① 適切な土地の有効利用により、良好な都市環境の形成と秩序あるまちづくりが進んでいる。	<p>① 宅地化農地の面積 (ha)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目指す値</th> <th rowspan="2">達成状況</th> </tr> <tr> <th>H21</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40.2</td> <td>37.0</td> <td>33.6</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>	実績		目指す値		達成状況	H21	H29	H30	40.2	37.0	33.6	×	<p>・都市計画マスタープラン/H26.9改訂</p> <p>・いこま塾の開催/H22～29年度/のべ約 500 名参加/まちづくり活動を主体的に進めていくための人材育成を図る</p> <p>・まちづくり井戸端会議/H23～現在/のべ約 750 名参加/人と人とのつながりをつくる、まちづくり参画へのきっかけになる場として開催</p> <p>・生産緑地追加指定/追加指定面積H26～約8600㎡/H30.6状況 258 地区、約 41.22ha/</p> <p>・用途地域指定/翠光台 H26、白庭台・別院台 H27 変更</p> <p>・地区計画指定/H30.6 現在 26 地区/翠光台 H24、別院台・あすか野北 1 丁目東 H27 指定</p> <p>・宅地化農地の面積/社会情勢の変化による法改正により、都市の緑地(農地)の価値が見直されたことを踏まえると、良好な都市環境が維持できている。</p> <p>・スマートコミュニティ/スマートコミュニティ推進地区を 1 ヶ所認定 H24(あすか野 1 丁目地区)/再生可能エネルギーの導入、住宅の耐震化及び緑化の推進等により地球温暖化防止、防災、景観に配慮した安全で安心なまちづくりの実現を目指す</p>	<p>・農業従事者の担い手不足等による、生産緑地面積の減少傾向</p> <p>・平成 34 年生緑一斉解除問題</p> <p>・調整区域における農業施策との連携</p> <p>・新たな発展の可能性を考慮した柔軟な土地利用について、地域の実情に即した更なる検討が必要</p> <p>・持続可能な都市を目指し、人口や産業等の将来動向についてさらに検討を深める必要がある</p>
			実績		目指す値		達成状況											
H21	H29	H30																
40.2	37.0	33.6	×															
② 市民主体の地域・地区レベルのまちづくりが推進されている。	<p>② 地区計画導入地区数 (地区)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目指す値</th> <th rowspan="2">達成状況</th> </tr> <tr> <th>H21</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	実績		目指す値		達成状況	H21	H29	H30	21	26	27	○	<p>・どこでも講座/H26:2 回、H30:1 回開催/H26:みんなでつくるまちづくりのルール(地区計画)/H30:生駒のまちを知り、まちづくりを考えよう(都市計画、生駒のまちづくり)</p> <p>・地区計画相談/開発事業による新規導入(翠光台、別院台、あすかの北 1 丁目東)/鹿ノ台地区計画区域拡大 H30.3/地元との相談について適宜対応</p>	<p>・社会情勢(多様な住まい方)に応じた地区計画内容の見直し</p> <p>・規制緩和、用途混在等の時代ニーズへの対応</p> <p>・導入地区数の伸び悩み</p>			
実績		目指す値		達成状況														
H21	H29	H30																
21	26	27	○															

<p><b>313 拠点整備</b></p> <p>本市はこれまで住宅都市として発展してきましたが、人々が暮らしやすい環境にするためには、多様な機能が集積した拠点の整備が必要です。本市の玄関口である近鉄生駒駅周辺では市街地再開発事業が進められ、快適な都市空間の創造と利便性の向上が図られましたが、残る第三地区の市街地再開発事業については、地権者の意向を踏まえ、事業の必要性について調査検討する必要があります。また、生駒駅南口地区における土地の有効・高度利用の促進についても課題となっています。</p> <p>また、南生駒駅周辺には文化・交流施設や商業施設などの集積が図られ、そこに至る公共交通としてコミュニティバスが運行されていますが、更なる道路や公共交通の整備が課題となっています。</p> <p>近鉄けいはんな線各駅周辺地域や東生駒駅周辺地域においては、生活サービス・交流・居住等機能の充実が図られつつありますが、地域の魅力ある顔づくりや、地域住民のコミュニティ強化、公共交通の利用促進等につながる環境づくりが課題となっています。</p> <p>学研高山地区第2工区については、リニア中央新幹線新駅を誘致し、新駅を中心とした新たなまちづくりを図り学研都市の活性化を目指して検討を進めているところです。</p> <p>学研都市にふさわしいまちづくりについて、関係機関連携のもと、検討していく必要があります。</p>	<p>① 広域的なにぎわいと風格のある、生駒の個性や魅力あふれる都市拠点の形成が進んでいる。</p>	<p>① 都市拠点である生駒駅の乗車人数の増加率 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目指す値</th> <th rowspan="2">達成状況</th> </tr> <tr> <th>H25</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>104</td> <td>105</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	実績		目指す値		達成状況	H25	H29	H30		100	104	105		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗車人数の増 100→104</li> <li>・ベルテラスいこまを活用した賑わいの創出</li> <li>・各種ワークショップ等の開催／いこま塾の取組み(ワークショップ)を通し、市民の意識把握とまちづくり機会の創出を推進</li> <li>・ホームページ等での情報公開／いこま塾、学研北生駒駅周辺まちづくり、地区計画関係、都市計画関係について適宜情報を公開</li> <li>・学研北生駒駅中心地区まちづくり構想の策定 H27.1／北部地域の拠点にふさわしい、良好なまちづくりを進めていくため、地区関係者とともに目指すべき将来像やその実現に向けた方向性などをとりまとめ／構想実現のため地区関係者との検討を継続的に実施中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生駒駅南口地区における土地の高度有効利用</li> <li>・地権者の意向を踏まえた生駒駅前北口第三地区の必要性の検討</li> </ul>
	実績		目指す値		達成状況													
	H25	H29	H30															
100	104	105		○														
<p>② 地域の顔となり身近な生活や交流を支援する機能が集約された地域拠点の形成が進んでいる。</p>	<p>② 地域拠点であるけいはんな線3駅の乗車人数の増加率 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目指す値</th> <th rowspan="2">達成状況</th> </tr> <tr> <th>H25</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>130</td> <td>105</td> <td></td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>	実績		目指す値		達成状況	H25	H29	H30		100	130	105		◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗車人数の増 100→130</li> <li>・各種ワークショップ等の開催／いこま塾の取組み(ワークショップ)を通し、市民の意識把握とまちづくり機会の創出を推進</li> <li>・用途地域、地区計画等規制の指定／近鉄けいはんな線の各駅周辺における地区計画の運用</li> <li>・学研北生駒駅中心地区まちづくり構想の策定 H27.1／北部地域の拠点にふさわしい、良好なまちづくりを進めていくため、地区関係者とともに目指すべき将来像やその実現に向けた方向性などをとりまとめ／構想実現のため地区関係者との検討を継続的に実施中</li> <li>・地区計画等規制に関する事務／地区計画 26 地区の運用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗車人数 H28→H29 の減少 (132→130)</li> <li>・南生駒駅周辺地域のまちづくり</li> </ul>	
実績		目指す値		達成状況														
H25	H29	H30																
100	130	105		◎														
<p>③ 学研高山地区第2工区でリニア中央新幹線新駅を見据えた新たなまちづくりの実現に向けた取り組みが進められている。</p>	<p>③ リニア誘致サポーター登録人数[累計](人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目指す値</th> <th rowspan="2">達成状況</th> </tr> <tr> <th>H25</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,000</td> <td>6,215</td> <td>7,200</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>	実績		目指す値		達成状況	H25	H29	H30		6,000	6,215	7,200		×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニア中央新幹線新駅(中間駅)誘致事業／市民に新駅誘致を広くPRするため、パンフレット・職員名刺・横断幕等で啓発／いこま博(サイエンスフェスティバル)での啓発活動を継続的に実施</li> </ul>		
実績		目指す値		達成状況														
H25	H29	H30																
6,000	6,215	7,200		×														

<p><b>511</b> <b>学研都市</b></p>	<p>関西文化学術研究都市は、昭和 62 年に「関西文化学術研究都市建設促進法」が公布・施行され、国家プロジェクトとして都市建設が進められてきました。本市においては、平成 5 年に奈良先端科学技術大学院大学の学生受け入れが開始され、産学交流事業や地域交流事業などの活動拠点として高山サイエンスプラザや民間企業の研究施設も立地が進み、平成 6 年には学研都市全体のまちびらきが行われました。</p> <p>本市では、公立小中学校で研究者による授業の実施やイベントの支援など、奈良先端科学技術大学院大学との連携による様々な事業を行っていますが、「市民満足度調査」では、市民の役割分担状況として「セミナーなどイベントに参加・協力」を「全く取り組んでいない」と答える人が 58.0%になっていることから、P R が不足していると考えられます。</p>	<p>今後、学研都市関係機関との連携をさらに深め、共同による施策の展開とともに、産学官連携により地場産業を育成・支援するなど、学研都市が立地しているという特色を活かしたまちづくりとその P R が必要となっています。</p>	<p>① 学研都市に立地している奈良先端科学技術大学院大学や民間企業との地域交流が盛んに行われている。</p>	<p>① 高山サイエンスタウンフェスティバルの来場者数（人）</p> <table border="1" data-bbox="1688 163 2119 281"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>目指す値</th> <th rowspan="2">達成 状況</th> </tr> <tr> <th>H21</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,600</td> <td>5,020</td> <td>5,200</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>	実績		目指す値	達成 状況	H21	H29	H30	1,600	5,020	5,200	×	<p>・学研都市関係機関の調査への協力  ・学研都市の広報に係る協力(パンフレットを窓口に設置等)  ・リニア中央新幹線新駅(中間駅)誘致事業／市民に新駅誘致を広くPR するため、パンフレット・職員名刺・横断幕等で啓発／いこま博(サイエンスフェスティバル)での啓発活動を継続的に実施</p>	
実績		目指す値	達成 状況														
H21	H29	H30															
1,600	5,020	5,200	×														



2. 第6次総合計画（原案骨子）

第6次総合計画（原案）					
現状と今後5年間の展望	今後5年間の主な課題	5年後のまち (2024年3月末)	指標（複数候補）	行政の5年間の主な取組	具体的な事業
<p>・拠点を中心とした魅力あふれる都市づくりにむけて、豊かな自然、良質な住環境、都市機能が集約された各拠点、産業振興など、それぞれの機能のポテンシャルが十分に発揮されつつ、融合しているまちを目指します。</p> <p>&lt;学研&gt;</p> <p>・けいはんな学研都市のさらなる発展に寄与するため、イノベーション創出の基盤となる施設立地の受け皿や、新たな雇用の創出と産業拠点形成による持続可能な都市運営等に向け検討を進める。</p>	<p>・人口構成の変化(人口減少、少子高齢化)に対応できる都市構造の形成</p> <p>・生駒の最大の魅力である豊かな自然、田園環境の減少</p> <p>・人口密度低下による都市のスポンジ化への対応</p> <p>・市民の多様なライフスタイルや価値観に順応できるまちづくりを推進するための体制の構築</p> <p>・多様な主体による自律的なまちづくり活動</p> <p>・地域拠点の整備</p> <p>&lt;学研&gt;</p> <p>・関係機関等との協力体制の構築</p> <p>・地権者、市民を交えた検討組織による地権者や市民の理解を得ることができる実現可能な計画の策定</p> <p>・時代のニーズや変化に対応する柔軟性を併せ持つ全体土地利用計画の策定</p>	<p><b>【土地利用】</b></p> <p>①適切な土地利用により、良好な都市環境と豊かな自然が調和したまちづくりが進んでいる。</p>	<p>① 1 DID 区域内の人口密度（都市計画課）</p> <p>① 2 都市農地面積（都市計画課）</p>	<p>① 1 時代のニーズに即した持続可能なコンパクトなまちづくりを一層進めるため、柔軟で合理的な土地利用を推進します。（都市計画課）</p> <p>① 2 将来人口推計値やオープンデータを活用し、人口構成に適應する細やかな都市（地域）構造について把握を行います。（都市計画課）</p> <p>① 3 特定生産緑地制度を活用し、都市緑地の保全を進め、豊かな自然環境の形成を進めます。（都市計画課）</p> <p>① 4 景観形成基本計画に基づき、良好な都市景観の保全と形成を進めます。（みどり公園課）</p> <p>① 5 商業・産業集積による持続的で活力ある都市の形成のため適切な土地利用の誘導を図ります。（都市計画課）</p>	<p>① 1 生駒市都市計画マスタープランの改訂（都市計画課） 用途地域指定（都市計画課）</p> <p>① 2 細やかな都市（地域）構造把握（都市計画課）</p> <p>① 3 生産緑地追加指定・特定生産緑地指定（都市計画課）</p> <p>① 4 景観形成基本計画による景観保全・創出の推進（みどり公園課）</p> <p>① 5 用途地域指定（都市計画課）</p>
		<p><b>【拠点形成・地域形成】</b></p> <p>②生駒の特性や資源を活かした魅力あふれる拠点・地域形成が進んでいる。</p>	<p>② 1 市民満足度調査「暮らしの満足度」（秘書企画課）</p> <p>② 2 拠点駅(生駒、北・南生駒駅)乗車人数（都市計画課）</p>	<p>② 1 地域特性を活かした適切なまちづくりを推進し、にぎわいと魅力ある拠点の形成を図る。また学研北生駒駅周辺については、まちづくり構想の実現にむけ、区域内権利者等とまちづくりを進めます。（都市計画課・事業計画課）</p> <p>② 2 市民アンケートやワークショップなどにより、地域の住民意向及び特性を把握し、地域特性を踏まえたまちづくりを地域住民と共に進めます。（都市計画課）</p>	<p>② 1 学研北生駒駅中心地区のまちづくり（都市計画課・事業計画課）</p> <p>② 2 地域ワークショップ等の開催（住宅政策室・都市計画課） どこでも講座、出前授業、地区計画等まちづくりに係る相談（都市計画課）</p>
		<p><b>【学研都市】</b></p> <p>③学研都市(高山地区第2工区)</p> <p>・地権者及び関係機関との合意形成、市民の理解を得た全体土地利用計画が策定され、事業化パートナー企業が参画している。</p>	<p>③ 1 事業の進捗率（学研推進室）</p> <p>③ 2 事業化パートナー企業応募数（学研推進室）</p>	<p>③ 1 有識者、関係機関、地権者、市民などを交えた、新たなまちづくり検討委員会を立ち上げ、土地利用計画や段階的整備などについて検討し、民間事業者が参画可能な計画を策定します。（学研推進室）</p> <p>③ 2 地権者組織を立ち上げ、地権者の意向集約・合意形成を図ります。（学研推進室）</p> <p>③ 3 学研都市の建設推進に向けて、公益社団法人関西文化学術研究都市推進機構との連携強化を図ります。（学研推進室）</p> <p>③ 4 リニア中央新幹線新駅を見据えたまちづくりの実現に向けた取組を関係機関と連携して進めます。（都市計画課）</p> <p>③ 5 奈良先端科学技術大学院大学と連携して行っている学校教育事業等の継続・充実を図ります。（教育指導課）</p> <p>③ 6 奈良先端科学技術大学院大学などの学研都市関係機関との交流促進及びイベント・セミナー等の広報支援を進めます。（いこまの魅力創造課）</p>	<p>③ 1 まちづくり検討委員会及び地権者組織の運営や民間事業者への広報活動、ヒアリング、参画意向調査（学研推進室）</p> <p>③ 2 市民への情報周知・P R（学研推進室）</p> <p>③ 3 公益社団法人関西文化学術研究都市推進機構が実施する調査等への協力（学研推進室）</p> <p>③ 4 リニア中央新幹線新駅(中間駅)誘致事業（都市計画課）</p> <p>③ 5 奈良先端科学技術大学院大学の研究者による特別授業及び出前授業（教育指導課）</p> <p>③ 6 奈良先端科学技術大学院大学などの学研都市関係機関との交流促進・広報支援（いこまの魅力創造課）</p>

### 3. 市内連携、市民等との協創のアイデア等

5年後のまち (2024年3月末)	課題解決のために 必要な市内連携	課題解決のために必要な市民・事業者に 果たしてもらいたい役割	課題解決のために取り組みたい「協創」のアイデア			
			市民と	地域と	事業者・NPO等と	他の行政機関等と
<b>【土地利用】</b> ①適切な土地利用により、良好な都市環境と豊かな自然が調和したまちづくりが進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンパクト化を進めつつ良好な都市環境を形成していくために、住宅、学校・教育、公共施設、公共交通、防災、医療・福祉、都市農業など分野横断的な取り組みが求められる。</li> <li>都市緑地、豊かな自然・田園環境を保全していくために、農林課や農業委員会と連携を図る。</li> </ul>	[市民] <ul style="list-style-type: none"> <li>法令などを遵守し、土地を有効に活用する。</li> <li>自然環境や地域全体の利益などにも配慮しながら、周辺環境の利便性の向上を目指した土地利用を行う。</li> <li>地域のまちのあり方について考え、主体的にまちづくり活動に参加する。</li> </ul> [事業者] <ul style="list-style-type: none"> <li>法令などを遵守し、土地を有効に活用する。</li> <li>自然環境や地域全体の利益などにも配慮しながら、周辺環境の利便性の向上を目指した土地利用を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令などを遵守し、土地を有効に活用するために、どこでも講座の開催等を通じて、市民とまちづくりの方向性について共通認識を持つ。</li> <li>都市緑地の保全を図るために、特定生産緑地制度を活用し農業従事者や市民と良好な住環境の維持・向上や、良好なまちなみの形成に努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令などを遵守し、土地を有効に活用するために、どこでも講座の開催等を通じて、地域とまちづくりの方向性について共通認識を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令などを遵守し、土地を有効に活用するために、事業者等との連携を強化します。</li> <li>企業立地の促進、既存企業の活性化を図るために、企業等と連携を図り、適切な土地利用を進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能なまちづくりを進めていくために、奈良県や近隣自治体と連携を図り、広域的な役割分担を考慮したまちづくりを進めます。</li> </ul>
<b>【拠点整備】</b> ②生駒の特性や資源を活かした魅力あふれる拠点・地域形成が進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な地域ニーズを踏まえたまちづくりを進めるために、分野横断的な体制を構築する。</li> </ul>	[市民] <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりへの積極的な参加により、意見を発信する。</li> <li>地域課題の解決や地域の活性化を自分ごととしてとらえ、主体的で継続性のある活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力あふれる拠点の形成のために、市民や関係者とともに、まちづくりを進めます。</li> <li>地域特性を踏まえたまちづくりを進めるために、地域住民と地域の課題や将来像について共有を図り、地域の活性化につながる主体的な活動を進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活性化を目標とした継続性のある活動の創出のために、地域団体と連携し、魅力あふれる地域形成を進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規事業の創出や企業立地の促進、既存企業の活性化を図るために、企業等と連携を図り、拠点・地域形成を進め、個性と魅力あるまちづくりを進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能なまちづくりを進めていくために、奈良県や近隣自治体と連携を図り、広域的な役割分担を考慮した拠点・地域形成を進めます。</li> </ul>
<b>【学研都市】</b> ③学研都市(高山地区第2工区) ・地権者及び関係機関との合意形成、市民の理解を得た全体土地利用計画が策定され、事業化パートナー企業が参画している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり検討の進捗状況や事業課題などについて情報を共有するため、分野横断的に連絡・調整を行う。</li> </ul>	[市民] <ul style="list-style-type: none"> <li>パブコメやWEBなどを用いて土地利用のアイデアを提案する。</li> </ul> [事業者] <ul style="list-style-type: none"> <li>開発実現に向け、事業化パートナー企業と協創し、具体案を策定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生駒市全体の利益のために、市民と高山地区第2工区のまちづくりのメリットを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と調和のとれたまちづくりを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業リスクを軽減した実現性の高い整備計画の策定のために、事業者等との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学研都市全体のさらなる発展のために、自治体間、大学、企業などの関係機関との連携を図る。</li> </ul>